

# 深化論

しんかろん

## 「受け入れる力」

2009年5月29日。私は、ジャーマンハウスレストランで、長年一緒に働いた仲間、友人たちに囲まれていた。国連日本代表部で働いて32年、その日が私の最後の日となるので、お別れの昼食会を開いてくれたのだった。

国連ドイツ代表部の中にある、ジャーマンハウスレストランの窓からは、1番街の眺めと、私が働いていた866UNプラザのビルが、よく見えた。私は、どうしても今日が最後の日であるという実感が持てず、昼食会が永遠に続いて欲しいと思っていた。32年前、IHI INC.で働くことに



イシカワ ジョー石金

IHI Inc.の石金恵一さんの奥さま。平成22年秋の叙勲において、瑞宝双光章を受章。これは、国際連合日本政府代表部における32年間の勤務を通して、日本国在外公館活動へ貢献したことが評価されたもの。昨年12月17日に国際連合日本政府代表部で行われた勲章伝達式では、西田特命全権大使より勲章と表彰状が授与された。

なつた夫に付いてシアトルからNYへ移ってきた私は、主人の友人からマンハッタンに住む日本人女性を紹介された。彼女は当時、日本代表部で大使の秘書をしており、彼女の自宅で開かれたパーティーに参加した際、代表部で受付の女性を探していると聞いた私は、応募して採用されることになった。

「Ministers' Week」と呼ばれ、各国の首相や外相が総会で演説をするため、この間、日本代表部では、夜間のみならず週末も全員で働くのが通常となっていた。それなのに、その年の10月、「Noraster」と呼ばれる嵐がNYに上陸し、私が通勤に使っていた地下鉄に遅れが出て、12分ほど遅刻してしまつたのだ。遅刻した私に、上司の男性は、国連総会期間中は、どんな事情があろうと遅刻は許されないと、大変な剣幕で怒つた。

私は悔しさのあまり、代表部の先輩スタッフの所へ行つて、上司に遅れた理由を説明して事情を理解してもらいたいと相談した。ところが、先輩女性は「理由など言わずに、遅刻したこと、彼を怒らせたことについて謝るのがベストですよ」とアドバイスをされたのだ。納得は出来なかつたものの、私はそのアドバイスを従い、結果として仕事を解雇されずに済んだ。今では私は、このアドバイスをくれた先輩女性に深く感謝している。32年間も働くことが出来たのは、Public Officeによくある不合理と思えるやり方に対しても、抵抗をせずに受け入れる努力をすることが大事であると、アドバイスをしてくれた先輩女性のお陰だったと信じているからだ。これは、ほかの文化を理解する上にも役立つように思える。